

第9学年2組 国語科学習指導案

指導者 平尾 智美

1 単元名 いにしえの心を受け継ぐ（協調学習）

2 単元観

○ 本単元は、歴史的な背景などに注意して古典を読んだり古典の一節を引用して使ったりする学習活動を通して、長い年月を経てもなお現代に残るものの見方や考え方を知り、古典を学ぶ意義と価値を見出すことが主なねらいである。

生徒はこれまでに、小学校第6学年で親しみやすい古文の文章を音読し、言葉の響きやリズムを捉えたり、中学校第2学年で現代語訳を手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知り、現代との比較を通して新たな発見をしたりして、古典に親しむ態度を身に付けている。

その上で、作品の歴史的背景などについて学習し、長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使い、古典に一層親しむ態度を育てるとともに、中学校三年間の古典の学びの集大成として、これまでの学習内容を振り返り、古典学習の意義と価値を見出すことは、我が国の伝統や文化を継承・発展させることにつながるため大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は高等学校で学習する「古典探求」分野とつながり、古典を主体的に読み深めることを通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う上で大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	小学校第6学年「いにしえの言葉に学ぶ」（東京書籍） 第2学年「いにしえの心を訪ねる」（光村図書）
現在	⇒本単元「いにしえの心を受け継ぐ」（光村図書）
未来	⇒高等学校「古典探求」

3 単元の目標

○ 歴史的背景などに注意して古典を読んだり、古典の一節を引用して使ったりして、作品の内容を具体的に捉えることができる。（知識及び技能）

○ 我が国の伝統や文化に触れることで、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（思考力、判断力、表現力等）

○ 言葉がもつ価値を認識し、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元指導計画（全6時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○単元の学習の見通しをもつ。 【単元を貫く言語活動】 「いにしえの心を受け継ぐ」とはどのようなことか？	◇既習事項を振り返り、単元名に着目し、単元の学習の見通しをもつことができる。【主体的】【知・技】
	2	○「古今和歌集」の「仮名序」の内容を捉えることができる。	◇比喻や対句表現、係り結びや文末表現などに着目し、内容を理解している。【知・技】
	3	○三大和歌集「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌を読み比べ、作者の心情や情景についてまとめる。	◇歴史的背景と表現の特徴に着目し、和歌の内容を読み取ることができる。 【思・判・表】
二	4	○「おくのほそ道」1を読み、芭蕉の旅に対する思いを読み取る。	◇現代語訳を参考にし、芭蕉の古人に対する憧れや旅支度の様子から、旅への思いを読み取ることができる。【知・技】
	5	○「おくのほそ道」2を読み、芭蕉が各地で感じた思いを読み取る。	◇脚注の歴史的背景を参考にし、芭蕉が何を見て何を感じたのかを読み取ることができる。【思・判・表】
	6	●3年間の古典の学習を振り返り、古典を学習する意義と古典の価値を考える。 「いにしえの心を受け継ぐ」とはどのようなことか？	◇3年間の古典の学習内容を比較し、これからも残したいと思うものの見方や考え方等を書くことができる。【主体的】【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：9年2組教室

(1) 主眼

- 3年間の古典の学習内容を比較する活動を通して、日本の伝統や文化について、自分の生活と照らし合わせて考え、古典を学習する意義と古典の価値について自分の考えを書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 本時の学習課題を知り、めあてを確認する。 (1) 課題について知る。 「いにしへの心を受け継ぐとは？」 (2) 解決方法や結果について見通す。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) 「つかむ」段階 ○課題を確認できるように、単元名の意味を問う。 「見通す」段階 ○考えた内容を活動につなげることができるように、小学校から中学校までの古典の既習事項を振り返る場を設定する。	10
展開【一人学び・学び合い】	めあて 「いにしへの心を受け継ぐ」とはどういうことなのか、考えよう。		
	2 【エキスパート活動】 古典の学習内容について振り返り、自分が思う古典のよさについて個人で考える。 ・エキスパートA：1年次学習内容(『竹取物語』、故事成語) ・エキスパートB：2年次学習内容(『枕草子』、漢詩) ・エキスパートC：3年次学習内容(『論語』、和歌、『おくのほそ道』)	「一人学び」の段階 ○生徒が既習事項を振り返り、古典の学習価値(よさ)を考えることができるように、各学年で使用した教科書を各グループのタブレットに提示する。 ○ジグソー活動で考えを共有しやすいように、考えたことをジャムボードに打ち込むよう指示する。	7
	3 【ジグソー活動】 古典の学習価値について、グループで話し合う。 【話し合いの視点】 ・その時代特有の価値観や考え方 ・時代が変わっても変わらない考え方	「学び合い」の段階 ○それぞれの考えを比較・分類し、古典の学習価値について考察できるように、話し合いの視点を確認する。	10
	4 【クロストーク】 (1) 全体で考え、調べた内容や自分の考えを整理する。 ・古典のよさをどのように受け継いでいくか。 (2) 個人の考えを付加・修正する。	○個人の考えが整理できるように、各班の発表からキーワードを板書する。 ◇日本の伝統文化としての価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の考え方や生活に生かしていくことが受け継いでいくということ。(記述)	10
終末【まとめる】	4 本時の学習をまとめ、振り返る。 (1) 学習内容についてまとめる。 まとめ 伝統文化の価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の生き方に生かしていくということだと分かった。 (2) 学習方法について振り返る。 ・比較、関連付け	「まとめる」段階 ○3年間の古典の学習を通して、伝統文化のよさと受け継ぎ方を考えることができたことを確認する。	8